

患者さんへ

研究課題名:「脆弱性骨盤骨折*の手術治療の後方視的検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。

* 脆弱性骨盤骨折とは、主に高齢者において、転倒などの軽微な外力で発生する骨折のことを指します。

| | |
|---------------|--|
| 1 研究の対象 | 2019年4月～2026年3月に当院で脆弱性骨盤骨折の手術を受けた方 |
| 2 研究目的・方法 | <p>脆弱性骨盤骨折は、これまで主に手術を行わない保存治療が行われてきました。しかし近年では、スクリュー固定など身体への負担が比較的少ない手術療法が普及してきています。本研究では、手術を受けた患者さんの診療録情報をもとに、骨折の状態や術後経過を検討し、適切な治療方針を判断するための指標を明らかにすることを目的としています。</p> <p>研究の期間:施設院長許可(2025年12月予定)後～2026年6月</p> |
| 3 情報の利用拒否 | <p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p> |
| 4 研究に用いる情報の種類 | 患者背景(年齢、性別、受傷時期)、病歴情報(受傷した経緯や原因、CT・レントゲン等の画像所見、骨折型)、手術関連情報(術式、手術中の透視画像)、手術後の経過情報(疼痛スコア、入院期間、歩行能力や日常生活動作、術後合併症)等 |
| 5 個人情報の取扱い | 収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。 |
| 6 お問い合わせ先 | <p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 研究責任者:札幌東徳洲会病院 整形外科外傷センター、副センター長 佐藤 和生 住所:札幌市東区北33条東14丁目3番1号 電話番号:011-722-1110(代表)</p> |

2026年3月2日作成(第2版)